

CHITOSE CENTRAL ROTARY CLUB

Passion & Green & Action. 2007-2008



発行 千歳セントラルロータリークラブ

会長 入口博美 / 副会長 白木松敏 / 幹事 佐々木俊英 / 会報編集責任者 武田伸也

〒066-8520 北海道千歳市本町4丁目4 ホテル日航千歳 1F TEL・FAX.0123-26-5788

オフィシャルホームページ <http://ccrc.jp> E-mail. ccrc@f3.dion.ne.jp

WELCOME

伊達市噴火湾文化研究所 所長

大島 直行 様

恵庭ロータリークラブ

日下 健三 様

千歳ロータリークラブ

次年度副会長 本宮 輝久 様

次年度幹事 斉藤 博徳 様

会長あいさつ

会長 入口 博美

皆様こんにちは。

ゲスト、ビジターにてお出での皆様、歓迎いたします。

ようこそいらっしゃいました！

さて、今年に入ってから多くの新年交礼会に出席したが、その中で、千歳市長も幾度と出席され来賓挨拶をしてらっしゃいました。出席し挨拶もしておられました。

その挨拶で、「昨年は、千歳市職員には、キーワードは『気』、「元気」・「本気」・「やる気」で頑張ってもらいたい、今年にはさらに『活気』を持って望んで欲しい。」という内容を話しておられました。

元気と言うのは、自分の健康上の元気はもちろんですが、自分の会社が元気でなければ何も出来ません。力をつけなければ社会貢献など口先ばかりで実際の行動力を発揮することは出来ません。そして本気とやる気とは一体でなければ、実行力を示すことは出来ません。

今年度の我がクラブのキーワードの一つに『情熱』の文字を入れておりますが、千歳市長のこのキーワード『元気・本気・やる気』に並んで付け加えさせていただけるのなら『熱気』であります。熱い気持ちを持って望んでいただきたい、まさに「情熱」であると思うところでございます。

何度も同じことを言い続けてきたような気がしますが、思いを持ち続けることの難しさがあり、継続は力なりを意識したいものと思っております。

どうか皆さん、「元気・本気・やる気」そして「熱気」を意識して、私の年度に於ける半年間という長い期間に、我々が実現しなければならぬことは、まだまだたくさんあります。何卒、引き続きご協力をお願い申し上げます。

例会出席状況 (2008年1月22日)

会員数	33名
会員出席者数	28名
欠席者数(無断欠席)	5(4)名
出席率	84.8%
ゲスト・ビジター出席者数	4名
出席者数総計	32名

終わりになりましたが、長泉ロータリークラブの柏木忠夫会員がご逝去されました。本日お通夜であります。私共クラブとの友好にご尽力されましたことに御礼申し上げますと共に心からご冥福をお祈り申し上げたいと思います。非常に厳しい寒さが最近続いておりますが、会員の皆様に於かれては、病気・事故のないよう心よりお祈り致します。

幹事報告

幹事 佐々木 俊英

- RI2008-2009 年度テーマは『夢をかたちに』であります。ガバナーは矢橋温郎(札幌西 RC)です。
- 長泉 RC 柏木 忠夫様が、1月21日にご逝去されました。享年82歳であります。謹んでご冥福をお祈りいたします。クラブより供花・弔電をお送り致しました。
- 前例会にて米山記念館への100円募金をお願いいたしました。前回例会を欠席された方は入箱し募金運動にご協力をお願いいたします。

ニコニコBOX

- 須藤 文会員:先日商工会議所新春交礼会にて、娘、息子が民謡を披露させて頂きました。又、今日は私の担当例会です。よろしく！
- 入口博美会員:商工会議所新春交礼会は私が担当して、須藤さんのお子さんの民謡を私が提案し、お願い致しました。ありがとうございました。
- 清水清光会員:家族全員で登別温泉旅行でした。今年も力を合わせ、仕事に励みます！

- 佐藤文雄会員：毎日歩いています。今年も頑張ります
- 山本啓子会員：アロニアを使った日本酒ベースのお酒、アロニアリキュール「ルララ」を、当店で取り扱っています。あっという間に売れてしまい好評です！
- 松坂敏之会員：100 円募金のため小銭を見ましたらポケットに500 円硬貨が4 枚眠っていましたので、入箱します。
- 本宮輝久様(千歳 RC)：4 月 27 日は千歳 RC の 40 周年記念式典です。皆様にお世話になります。

本日のプログラム

担当 職業奉仕委員会 委員長 須藤 文

卓話例会『地域社会～まちの発展に大切なこと～』

講師 大島 直行 様

伊達市噴火湾文化研究所 所長

市民に対して、市民の要望をどうやって振り分けるか、振り切るかということが行政と思っておりましたが、私にはそういった素手を身につけないままに、いきなり44歳で、管理職で伊達市役所に入ったものですから、どうしても市民の見方になってしまうわけです。そういうことでいまだに市役所の中では軋轢があります。おかげさまで素敵な文化を切り口にして行政を出来る立場になりました。

3年前に文化研究所を作りました。全国で伊達市だけです。どうしてほかの市町村は作らないのか？ 無駄な施設だからです。

しかし伊達市はそうではなかったのです。10年ほど時間はかかりましたが、市民の中に「まちのステイタスは文化ではないか」「文化を大切にすることによってまちは発展するのではないか？」と市民が少しずつ考えるようになって来ました。もちろんほかの市町村でも文化行政はやってありますが、それはどちらかというと、市民の趣味を後押しするという文化行政な訳です。

私たちのまちには江戸時代の古い文化財があったということ。市民にとっては身近であったので、以外に簡単に市民の中に“文化”と言う言葉が定着していきました。キーワードは企業の皆さんが、“文化”に対して理解を示し



てくれたということです。

3万8千人の町、市の職員340人しかいません。研究所は部の扱いとなっています。所長は部長職で9人の職員を配置。学芸員は3人置いております。

学芸員たちは単に研究だけでなく、まちづくりにどのように使えるかという研究をしています。

今は芸術分野にも手を出しています。音楽、美術でもそれは単なる趣味のレベルではなく、伊達から世界に通用する画家あるいは音楽家を育てようというコンセプトでやっています。一流の講師陣を呼ぶにはお金がかかります。企業の支援があって、寄付をいただいて、官民協働の形で文化事業をやっていこう、まちのステイタスをあげたいということなのです。まちの豊かさというのは、文化を大事にし市民が文化に対して誇りを持つということです。

もうひとつは伊達市から才能のある子供たちを世界に送りたい、全国の土俵で仕事をさせたいという思いがあって官民協働でやっているということでもあります。

3年間でやってきた文化事業、全て企業がかかわって後押ししてくれています。

もうひとつは市民のボランティアが5団体あります。市民と協働、企業と協働しながら行政が一体となって文化行政を進めていくおります。その成果を資料にまとめておりますのでお読みください。

さて人はいつから人間になったのでしょうか？

文化を持つ「人間」への進化の変遷を調べますと、大変興味深く、また文化を有するまでの必然性も伺えます。

中生代の終わりごろに、果実や昆虫などを求めて樹上生活に入った哺乳類がいました。霊長類(ヒトや猿の仲間)は、こうした哺乳類から進化したと思われまふ。霊長類は元来、樹上の生活に適応した森林性の動物です。ところが新生代の終わりごろになると、森林は急速に減少し、広がり始めたサバナに進出する霊長類が現れました。ヒトの直立歩行などの特徴はこのとき獲得されました。やがて社会、言語、技術、文化の発展は脳を巨大化させ、巨大化した脳はさらに複雑な社会、言語、技術、文化を発展させました。その結果、人類は自然環境に大きな影響を与える存在となりました。

約250万年前に最古の石器が製作されました。約200万年前には脳が霊長類の平均を大きく上回り、脳の巨大化が始まりました。このころから技術、言語、社会、文化の複雑化が始まったと思われます。

100万年前になるとヒトの祖先はアフリカからユーラシアに進出し、さらに約1万4千年前には、極寒のシベリアを通過して、アメリカ大陸にまで到達しました。新しい環境に対する適応は、ヒトでは技術、言語、社会、文化の進化によって起きました。ヒトがアメリカ大陸に進入してまもなく、アメリカ大陸では長鼻類などの大型哺乳類の大量絶滅が約1万年前に起きました。これはヒトの進入と気候の変化が重なることによって引き起こされたものだと考えられます。現在のヒトは気候の変化の助けなしで、生物を絶滅させる力を身につけています。

やはり市民の中には根強く「文化で飯が食えるか」ということがあります。

会社社長などは「文化にお金を使うな！そんなもったいないことをする前に道路をつくってくれよ。橋をつくれよ！」こんな意見が当然出てきます。でも、そこをクリアしないと文化行政は出来ません。

人間として、文化が如何にまちの発展に大切かということ、10年間言ってきました。財政難の時こそ文化を大事にして、市民に町の文化に誇りを持ってもらうということが、次のステップであり、経済的にも飛躍するために大切なことだと思います。

短い時間ではありましたが、私の熱い思いを聞いてくださりありがとうございました。

——— ありがとうございます。伊達市というと隣町なのですが、大島先生には近くて遠い伊達市からおいでいただきました。

資料を、ご覧いただくと本当によく分かりますが、今日はその貴重な体験談を通してベーシックなお話を、私も勉強しなくてはならないなあと思いました。我々の活動に大変参考になるとわれます。

また、超一流の先生たちによって子供たちに基礎を教えてくれるという、取り上げれば語りつくせないような方々の講習が現在行われております。研究所のホームページでは詳しい活動状況もご覧いただけます。今日は本当にありがとうございました。

(職業奉仕委員会 委員長 須藤 文)